

卒業論文の要旨

論文題目	女子大学生の恋愛イメージとコミュニケーション行動の調査 ー嫉妬時の情動と嫉妬への対処を中心にー
氏名	伏谷花菜
メジャー	コミュニケーション学専攻プログラム
(要旨)	
<p>本研究の目的は、女子大学生が恋愛場面で嫉妬を感じたときにその感情に対してどのように対処するのか、また嫉妬がコミュニケーション行動に対してどのような効果をもたらすかを明らかにすることである。本研究では、「恋愛イメージ」「傷つきやすさ」「嫉妬時の情動」「嫉妬時のコミュニケーション反応」「嫉妬の対処方略」の5つの項目を質問紙によってデータを収集し統計ソフト SPSS を用いて分析した。</p> <p>結果、「恋愛イメージ」では昔より現在的女子大学生の方が、恋愛に対して「成長」「相互関係」といったポジティブなイメージを持った人が多いことが分かった。その後「恋愛イメージ」と「傷つきやすさ」を相関分析すると、「傷つきやすさ」と「独占・束縛」「衝動・盲目的」といった恋愛に対してネガティブなイメージに有意な関係が見られ、恋愛に対してネガティブなイメージを持つ人は傷つきやすいことが分かった。「嫉妬時の情動」では、特に「不安・悲哀」「怒り」の情動が強いことが分かった。「嫉妬時のコミュニケーション反応」では「相手の反応確認」をする傾向が強いことが分かった。「嫉妬時の情動」と「嫉妬時のコミュニケーション反応」を相関分析すると、「不安・悲哀」の情動が強くなると「非難・喧嘩」「相手の反応確認」が強くなり、「怒り」の情動が強いと「非難・喧嘩」が強くなり、「興奮・後悔」が強まると「非難・喧嘩」「所有の表示」「相手の反応確認」が強くなることが分かった。「嫉妬の対処方略」では「何事もないかのごとく振る舞う」傾向が強かった。最後に「嫉妬時のコミュニケーション反応」と「嫉妬の対処方略」を相関分析すると、「所有の表示」と「相手の反応確認」が強まれば「問題軽視」が強まり、「否認・回避」が強まれば「願望逃避」が強まることが分かった。</p> <p>本研究の結果から現在の女子大学生は嫉妬しない人が増えていることが分かった。しかしそれは嫉妬をしていることに気付かず、無意識に自分の感情を蓄積してしまっている可能性がある。感情を表出することは良い人間関係を築くための第一歩なのである。</p>	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>本論文は、現在の女性大学生の恋愛における嫉妬とコミュニケーション行動について、「恋愛イメージ」「傷つきやすさ」「嫉妬時の情動」「嫉妬時のコミュニケーション反応」「嫉妬の対処方略」の関係を調査したものである。複数の先行研究を組み合わせ、それらの結果をきちんと踏まえながら、現在の女子大生の嫉妬行動の特徴と問題点について丁寧に分析と考察を行っており、興味深い論文に仕上がっている。統計的手法をうまく使いこなしており、論文としての完成度は高く評価できる。</p>	